特定非営利活動法人（認定NPO法人）
パレスチナ子どものキャンペーン　2023年6月20日発行 no.126

サラーム

平和

多様な子どもたちのための教育支援を開始

23年度の新しい事業として、レバノンでは、これまで継続してきた教育支援を発展させた「多様な子どもたちへの教育支援」を開始しました。

レバノンは人口の５人に１人が難民です。パレスチナ難民やシリア難民、他にも様々な紛争地や貧困国の出身者もレバノンに集まっていますが、その子どもたちの多くが公教育から取り残されてきました。パレスチナ人の子どもは公立学校に通えず、国連の学校に通っているものの、学校教育から落ちこぼれる子どもが多くいます。シリア難民の子どもの約半数は公立学校に通っていましたが、19年以降の経済危機でレバノン人の中産階級が私立学校へ子どもを行かせられなくなり、公立学校に転校させる状況で、シリア人の子どもたちは公立学校から結果的に押し出されています。

レバノンには障がい者福祉法があるものの、公立学校も国連の学校も実際には障がい児を受け入れられず、障がいのある子どものための特別な学校は授業料が高いため、障がいを持つ子どもたちは教育から排除されてきました。教育から取り残されてきたこうした子どもたちを包括する「インクルーシブ教育」を目指して、従来よりも幅を広げた教育支援を開始することになりました。

まずは首都のベイルートで、パレスチナ難民キャンプのNGO「子どもの家」（これまでのパートナー）に加えて、100年以上の伝統がある福祉団体「孤児たちの家」傘下にある障がい児教育施設と、比較的新しいNGO「夢の家」の３団体と協力し、身体障がい、軽度の精神障がいや発達障がいなどの子どもを含む３歳から13歳の850人の子どもたちに、特性に合った教育支援をすすめます。

それぞれの施設の修繕や長時間の停電に備えるソーラーシステムなどの環境整備、資機材提供なども行います。また保護者たち、指導員や保育士などのスタッフも支えます。来年には、公立学校や国連の学校などとの交流の機会を作り、難民や障がい者など様々な状況に生きる子どもたちのことを、同じ地域に住む同世代の子どもたちや、地域住民に知ってもらおうと考えています。